

# 小さな群れ

カトリック美唄教会

2022年3月 No.298

2022年2月27日発行

主任司祭 ナルチゾ神父

3月2日に、四旬節が始まります。3月はまるまる四旬節を生きることとなります。ミサの祭服も、緑色から紫色に変わります。四旬節の40日間（日曜日は数えない）は、一年の典礼の頂点である復活祭を目指しての準備期間です。

四旬節の特徴は、

- ・洗礼の準備
- ・回心と罪の償いという性格をもっています。

四旬節は非常に豊かな典礼の内容をもっているため、典礼から毎日の生活を豊かにすることができます。

この月、17日は、日本の信徒発見の聖母を祝います。激しい迫害、困難を乗り越えて聖母と出会った信徒たちの生涯は今のわたしたちに多くのことを示唆してくれるのではないのでしょうか。



また、19日には聖ヨセフを、25日には神のお告げを祝います。聖ヨセフは、日常の姿を通して、危機に向き合ってそれを乗り切る方法を示しています。

25日は神のお告げの祭日です。聖母はいろいろの出来事を心におさめておられた方です。

新型コロナウイルスの出来事は、主がなにを人類に語っておられるのか、心におさめ思い巡らしていきましょう。

この季節に、わたしたちが祈りの中で忘れてはならないことは、洗礼志願者のことです。新型コロナウイルスの感染拡大によって、洗礼志願者は教会の中での交わりの時が、非常に少なくなっていますが、洗礼志願者のために特別に祈ると同時に、自分が洗礼を受けた時の約束を更新する時としましょう。特に新型コロナウイルスがもたらす数々の試練の中で、一人ひとりが信仰と信頼の中での季節を生きていきましょう。（参考：Laudate）



© Copyright Jane Galt Illustrations 2003



主任司祭 ナルチゾ神父

2022年3月 主日ミサ・平日のミサ 予定

美唄教会 小さな群れ  
2022年 3月 No.298  
2022年 2月27日発行

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
2	水	灰の水曜日		ミサは砂川教会	
4	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
6	日	四旬節第一主日	午前 11:00		灰の式あり
11	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
13	日	四旬節第二主日	午前 11:00		ミサ後運営委員会
18	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
20	日	四旬節第三主日	午前 11:00		
25	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
27	日	四旬節第四主日	午前 11:00		

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前 10:30** 4・11・18・25 日です  
《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日（敬省略）			清掃当番	
3月 1日	ダビデ	ウッケッドウ・ダビデ	第2週 中村	
3月 10日	マリアフランシスカ	村田千津子	第4週 中村	
3月 19日	ヨゼフ	吉村道雄 ・ 小山政男	小川知子	

【お知らせ】

- ◎1月30日(日)世界子どもたすけ合いの日 献金は10,000円でした。
- ◎3月2日(水)灰の水曜日 ミサは砂川教会
- ◎四旬節に入り3月6日(日)ミサ前10:30より十字架の道行
  
- ◎4月10日(日)ミサ後 定例委員会と会計監査
- ◎4月24日(日)ミサ後 定期総会(予定)

# 自分の道を歩む勇気

トマス ジェイムズ マッキンタイア

「わたしの母とはだれのことか。またわたしの兄弟とはだれのことか」

【マタイ12:48】

理解に難しいこの言葉。愛を説いたイエスが自分のお母さんを放っておくなんて言葉と行動が矛盾しているように見えてしまうこの名場面には、実に非常に大事な学びがあります。

人生を送っていく中で色々な人との付き合いがあります。その中で一番身近なのは家族との関係でしょう。人によって事情が違ったりすることがあるにしても、大概の人は生まれてから成人して独立するまで家族と一緒に暮らすことになります。若い時に家族に支えられながら成長していきますが、高校に上がるくらいの頃から自分自身の考えが出てきて独立心が芽生えて自由に行動したいあまりそうさせてくれない両親に対して反抗するといういわゆる反抗期が起きます。これは自然なことで大人になる過程で大事な段階です。その時は親に制限されているように感じるかもしれませんが、あとになれば、親が自分のことを考えてくれていたことが分かることもあるでしょう。しかし、人と意見が合わない、



理解されている気がしないといったことは反抗期に限るものではありません。生涯を通して、この摩擦が続きます。反対されたり、否定されたり、受け入れられなかったり、介入されたり、少数派であったりなどなど、人と逆の立場にいることは珍しいことではありません。しかし、人間には人に認められたいという承認欲があります。人と違うことは私たちが

好まないです。人と違うことが人目を招き寂しく辛い思いになりかねないからです。イエスも人の憎しみの的として、反対されて世間と反対の立場にいる孤独心を味わったことでしょう。しかし、イエスが人の共感が得られないこの孤独感を気にしないように上記の聖句で教えています。

現代は情報が溢れ出ている時代です。インターネットやスマホの普及によって情報が手に入りやすくなった上に情報量が劇的に増え続けています。色々な情報が飛び交う中で圧迫されている私たちが世間と逆らっているような錯覚を味わうことがしばしばあります。正しい道を歩んでいるはずでも、やはり「家族や友達と違って」いることは心苦しいものがあります。しかし、肝心なのは、人に左右されずに自分の道を歩むことです。イエスの呼びかけはその通りで世界のノイズに振り回されずに自分の心に耳をすませるということです。信徒信条には「普遍の教会」という言葉が出てきますが、普遍の教会には普遍の知識があるはずで、どの時も変わらないこの普遍的なものを追求しながら自分の道を進むことが私たちに求められています。そのために一人で歩く勇気が必要です。



自分の道を歩むために自分を見つめることが大事です。これは裏を返せば人を裁かないということにもなります。ここでいう裁くとは「裁くな」というあの聖句のことです。つまり、良い人か、悪い人か、正しいか、正しくないか、他人のことを判断しがちな私たちが人のことを判断しないように言われています。判断しないために外のことに反応せずに受け入れる心構えが欠かせません。外のこととは他者のことであったり、自分でどうしようもないことであったりすることを意味します。無力なことを心配するよりは自分に向き合い自分の道を求めると良いでしょう。以下の聖句でこの教訓が表れています。



「兄弟の目にあるおがくずは見えるのに、

なぜ自分の目にある丸太に気付かないのか」【マタイ 7：3】

自分に求められていることに素直に向き合い、心にあるものを大事にし、日々の教養を高め、大胆に自分の道を歩みたいものです。